

研究テーマ：和訳先渡しで量は克服できるか

所属 高知追手前高等学校

氏名 永野 郁

RG SH3

1 研究の背景

アクションリサーチの対象としたのは、自分が担任をしている1年3組（人文・語学コース）である。ほぼ全員が国公立大学進学を希望しており、進路意識は高い。また、英語好きな生徒も多く、英語学習に対してのモチベーションを高めるのに教員がさほど苦勞をしないクラスであるといえる。

2 リサーチクエスチョン

和訳先渡し方式の授業で英文を読むことに対する抵抗をなくし、なおかつ同じ英文を何度も読むことによって教科書で扱われている語彙をしっかりと習得することができる。

3 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

- ・ウォームアップ（ミステリーワード）：出題語によっては文レベルでヒントが出せる。
- ・TASK 1（語彙覚えセッション）：書いて、発音して語を覚えるという方法の有効性を生徒に認識させるために導入した活動。思った以上に生徒は集中して取り組んでいた。
- ・TASK 3（英文構造理解セッション）：教員の説明をよく聞き、メモをとることができる。
- ・語彙探し活動：ペア活動にはかなり積極的に取り組む。
- ・音読練習：シャドーイングをしたが、何人かの生徒は本文を見ずに挑戦していた。

予備調査2 英語力を示すデータ

7月9日実施 WPM 計測結果（140 words）

0～59	60～79	80～99	100～119	120～139	140～159
16名	7名	9名	4名	3名	3名

予備調査3 アンケート、授業評価の結果

5月、7月の2回行った「英語I」授業アンケートの結果（42名分）を以下の3点にまとめた。

①和訳先渡し方式の授業について

和訳先渡し方式に対する肯定派は、5・7月ともに多かった。（5月：36名 7月：38名）

②1時間に読む英語の量について

当初「多い」と感じていた生徒が「普通・少ない」と感じるようになってきている。

③語（句）の覚え方について

語（句）を、本文の英文と連動させて覚えている生徒が多数いることが分かった。

4 仮説の設定

仮説1：授業の冒頭で行うウォームアップ(mystery word warm-up)で、英語の発話・聞き取りを生徒どうしでさせることを継続的に行えば、まず英語に対する抵抗感が減少する。

仮説2：全レッスンにおいて、レッスン全体、またはある程度まとまった量の英文を読み、ハードル

の高すぎないタスクを短時間でこなすことで、英文の量に対する抵抗感が減少する。

仮説3：今年度の到達目標の一つが「教科書の新出単語・熟語を完全に覚える」ことであることを常

に生徒が意識し、またどの語が、教科書のどの部分で使われていたのか振り返らせることに

よって、英文の中で語彙を習得することができるようになる。

5 計画の実践

- ①授業の冒頭は、教員は英語のみを使用し、英語を「聞く」「話す」環境作りをする。
- ②ウォームアップでは、2問中1問は必ず challenging なものとし、できるだけ文レベルでヒントを出すように促す。また、場面に応じて関連のある語彙を紹介し、語彙力拡大を目指す。
- ③1時間の授業で、生徒が必ず1レッスン分の英文を何度か読むような活動を盛り込んだワークシートを作成する。また、1時間の授業の中で様々な形態の活動をさせることとする。
- ④機会あるごとに本年度英語の到達目標の一つが「教科書の新出単語・熟語を完全に覚える」ことであることを生徒に伝え、また、到達度を測るテストを定期的に行う。
- ⑤一度習得した語彙がほかの場面ででてきた場合、振り返らせ、確認する。教科書を最大限に利用し、まずは教科書の語彙・英文をインプットさせる。

6 実践の結果 「5 計画の実践」の①～⑤に従って以下に結果を記す。

- ①教員が授業の冒頭で英語を使用することは終始取り組んだ。また、授業中にもできる範囲で英語で指示、説明をするように心掛けた。その結果、生徒は教員が英語を使用することを当然であると思うようになったようだ。
- ②この活動は教員の期待を絶対に裏切らないものであった。つまり、生徒はこの活動を毎回楽しみにしており、楽しんで積極的に英語を話し、パートナーの話す英語に耳を傾けた。
- ③ワークシートについては工夫をして作成ができたのではないと思う。1時間の授業で多くの英文を読むことを強いる活動を盛り込むことで、生徒の量に対する抵抗感は少なくなった。
【アンケートの結果 5月(42名)・7月(42名)・10月(41名)】
1時間に読む英語の量について
1時間で読む・見る英文の量についての反応が以下の通りに変化した。
「多い」と感じる人数は 30(5月)→20(7月)→26(10月)
「大丈夫」と感じる人数は 29(5月)→34(7月)→37(10月)
- ④⑤「教科書を頭に叩き込む」、「教科書を最大限に活用する」という意図は生徒にはかなり浸透したようである。

7 結果の検証

計画の実践により、ある程度の成果は得られたと思う。まずは、生徒の英語に対する抵抗感である。生徒は、中学校の教科書からは想像もできないくらいの英文の量に4月の時点で直面するのであるが、「和訳先渡し」により、徐々に量に慣れていったようである。また、英語を読むことのみならず、聞くこと・話すことに対しても垣根は低くなったのではないと思う。語彙に関しては、教科書の語彙を完全にインプットできてはいないので、その辺を今後どう指導していくかが課題であろう。今回設定したリサーチクエスチョン「和訳先渡し方式の授業で英文を読むことに対する抵抗をなくし、なおかつ同じ

英文を何度も読むことによって教科書で扱われている語彙をしっかりと習得することができる」は、語彙習得以外に関してはクリアできたのではないかと分析する。

8 成果と今後の課題

今回の取り組みによって様々なことを学んだ。まず一つ目は、アンケートを定期的実施することにより、生徒の意識や実態が客観的に見えたということである。そしてアンケートにより、生徒に教員の取り組みの意図や、ねらいが伝わったことも大きな成果である。作成するワークシートへのひと工夫、しかけが生徒の学習意欲にも影響することも分かった。要するに切り貼りするだけではない、ひと手間かける生徒への愛情が大切ということであろうか。前述したように、生徒は英文量は克服したようであるが、そのことによって読解力がついたのかはまだはっきりとはわからない。今後語彙サイズテスト、WPM,全国模試の結果などを分析しながら、生徒により力をつけさせる指導をしていかなければならないと感じた。